

平成 30 年度 大阪府立旭高等学校 第 2 回学校運営協議会

日時：平成 30 年 10 月 5 日（金）午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分

場所：本校校長室

委員

会長	関西大学文学部 准教授	森 勇太
副会長	大阪市立旭陽中学校 校長	進藤 文代
委員	大阪市立高殿小学校 校長	北浦 正美
委員	平成 28 年度本校 P T A 会計監査	徳島 美穂
委員	本校 P T A 副会長	佐藤 章子
委員	本校 P T A 会計	安藤 裕美子

1. 校長挨拶

台風 21 号による学校の被害状況、台風 24 号来襲時の学校の対応の報告

2. 授業等見学

- 1 年英語 C L 演習（少人数展開による A L T（外国語指導助手）とのチームティーチング）、国語総合（古典分野）、3 年コミュニケーション英語Ⅲ、政治経済、数学演習 β を順次見学
- 災害用備蓄倉庫内の備蓄品を視察

～ 休 憩 ～

3. 中学校訪問の報告（概要）

- 本校 1 年生が卒業した中学校を中心に 8 2 校を訪問。時期は 7 月下旬から 8 月下旬。
- 訪問校は旧 3 学区、旧 4 学区（9 学区制時）を軸として、その年度ごとで見直しをはかっている。近年は学区撤廃を受けて、旧 1 学区や旧 5 学区の中学校からの志願者が増加したことなどから、訪問校の選択が大切となっている。
- 訪問の目的は、普通科と国際教養科の概要を含む本校紹介、部活動等での本校生の活動状況の紹介、および本校入学生徒の情報交換。特にここ数年は、生徒の通学区域が広域になるにつれて、新 1 学年担任団が入学生徒の情報交換をする場ともなる。さらに、オープンスクールの受付方法についての問い合わせも多いので、その周知をはかっている。
- 中学校教員から質問が多かった内容
 - ・入試制度に関する質問
 - ・国際教養科に関する質問
 - ・語学研修を含む国際交流に関する質問
 - ・留学に関する質問
 - ・部活動に関する質問
- 中学校教員が抱く本校に対するイメージや意見
 - ・おおむね本校の教育活動に対する中学校の評価は高い。
 - ・志願倍率が高くなって、以前より入学しにくくなったイメージが複数校からあげられた。
 - ・志願者数が増えているのは、オープンスクールの貢献度が高い、という意見もあった。

- ・ある中学校からは、「旭高校に入学した生徒は、皆『楽しい』と言って中学に戻ってくる。ありがたい。進学実績も大切だが、学校の雰囲気大事だと思う。」という意見を頂戴した。

4. 協議・意見交換（司会：協議会会長 ●委員 □校長または学校側事務局員）

- ：英語の授業（1年英語CL演習）が楽しそうでよかった。生徒が積極的に発表し参加している様子が見てとれ、アクティブラーニングだなと感じた。
- ：ALTが生徒から親しまれている。少人数の授業のメリットを生かし、少人数での中身の濃いやり取り、コミュニケーションを大事にしている。
- ：クラスを少人数に分ける分け方は、習熟度別なのか。
- ：番号で単純に分けるケースもあり、また発表やプレゼンテーションの活動をするときに一人であるのが得意か、グループであるのが得意かなど、活動のアプローチの違いで分けることもある。
- ：普通科でもALTの授業があるのか。
- ：週当たりの時間は国際教養科より少ないが、普通科の英語授業にもALTが入っている。
- ：生徒が、英語を非常に流暢に話していた。今は小学校から英語の時間があり、発音等慣れ親しんでいるところの成果かなとも感じた。昔だったら、（あんなに流暢に英語を話したら）友達から冷やかされたりもしたもののだが、そういう雰囲気も全くなかった。
- ：本校生、特に国際教養科の生徒は、常に留学生が身近にいたり国際交流の機会が多いこともあって、外国人とのコミュニケーションに積極的な態度の生徒が多い。
- ：見学した授業の中で、先生が生徒の発言に対し、「そうだね」「すばらしい」「パーフェクト」などいろいろな言い方で生徒に声掛けしほめていて、素晴らしいと感じた。
- ：中学校訪問を実施していて知りたいのは、中学校から見て高校教員が中学校訪問することをどのように感じているのか。中学校によっては忙しそうで、事前にアポを取って訪問しても、十分に情報交換できない場合もあった。
- ：邪魔ということではないが、何度も訪問される学校もある。
- ：ここ数年、東淀川区の中学校訪問を担当しているが、学区が撤廃された直後は「十分な情報のない学校に安心して生徒を送り出せない」と中学校の教員に言われていたが、毎年訪問を積み重ねていった。もともと淀川を挟んで本校からもたいへん近く、大阪メトロ今里筋線や阪急京都線・大阪メトロ堺筋線など、本校とのアクセスも便利な地域である。また、卒業生が母校の中学校に帰ったときに「学校が楽しい」と言ってくれたりして、徐々に旭高校の情報や様子が伝わっていったようだ。現在は、志望者が徐々に増えてきている状況である。保護者の口コミも大きい印象だ。
- ：大学のオープンキャンパスでも、ほぼ保護者が同行して参加し、保護者の方がいろんな質問を投げかける状況がある。進路については、保護者の関心が高いのは理解できるが、できれば生徒自身が、自ら考え調べる姿がもっと欲しいものである。
- ：地域では、「小学生に声掛けをしている不審者がいた」など不審者情報がたまに回っているが、高校も共有しているのか。
- ：小中学校が地域とのつながりが最も強くそうした情報も一番最初に入り、共有している。
- ：小学校は、子どもや保護者から直接情報が寄せられる。警察にも情報提供している。「安まちメール」も利用している。
- ：先ほど、本校の災害用備蓄倉庫を視察したが、先日の台風の際、本校に地域住民から電話があり、旭高

校は避難所を開設しているのかとの問い合わせがあった。旭区役所危機管理課からは、災害の時はまず小中学校で対応し、対応しきれない時、旭高校へ避難所の開設を要請するとされている。そこで、区役所か小学校が、最初の避難所として開設されると説明した。実際、小学校はどうだったか。

●：区役所から職員が出向いてきて、避難所を開設した。

□：本年は、地震や大雨、大型の台風など、さまざまな自然災害に見舞われた。避難訓練も毎年実施しているが、より実態に即した条件で実施してみて、うまく成功することより課題を浮き彫りにするための訓練といった位置づけで実施を考えている。

5. 校長謝辞

学校外からのご意見が貴重である。こうしたご意見を大いに参考にし、学校運営に役立てていきたい。

6. 事務連絡

次回第3回学校運営協議会は、1月28日（月）午後2時30分より開催予定